

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和6年12月9日
長崎市立畝刈小学校
学校だより NO. 99
校長 田中 成年

＜子供ど真ん中教育＞

～薬物乱用防止教室～

12月2日（月）長崎税関の方を講師としてお招きし、6年生を対象とした「薬物乱用防止教室」を行いました。



「薬物乱用とは、薬を病気やケガを治すこと以外の目的で使用すること、使い方や量を守らずに使用すること、不正薬物を使うこと、たとえ1回使っても薬物乱用となります。」と、教えていただきました。



薬物とはどのようなものか、一人一人見せていただいたり、子供たちが薬物使用を誘い断る役割演技を実際に行ったり、ビデオを視聴して薬物の恐ろしさを理解したりする等、薬物使用に関する正しい知識を得ることができました。

薬物乱用を防止するためには、「**薬物乱用の危険は身近にあり、自分が関係ないと思わないこと、薬物に対する正しい知識をもち、その恐ろしさを理解すること、どんな誘いにも乗らない強い意志をもつこと、一人で悩まないで家族や友達に相談すること**」が必要であることを学びました。「**断る勇気・逃げる勇気・相談する勇気**」の「3つの勇気」をもつことも、教えていただきました。

＜麻薬探知犬による実演＞



今回は、麻薬探知犬も2頭連れてきてくださっており、実際に子供たちが並んでカバン等を持ち、麻薬探知犬が麻薬を探知するという実演も行っていました。

薬物を持っていないければ、通り過ぎます。持っていることが分かったら、そばに座ります。とても賢さを感じましたし、長い時間をかけてしっかりと訓練をされているのだなと感じました。

麻薬探知犬の激しい動きには、子供たちもとても驚いていました。



子供たちからは、「**麻薬探知犬を育てていくうえで大変なことは何か、薬物の乱用はどんな人たちが多いのか、なぜ税関に務めようと思ったのか**」など、多くに質問が出ました。

薬物使用の低年齢化が進み、簡単に手に入りやすくなっているのは事実です。いかに薬物から子供たちを守るかが、とても大切になってきます。

これには、子供たち自身が薬物使用について正しい知識と対応の仕方を身に付ける必要があります。

「興味本位で使用しないこと」「1回使用しても、薬物乱用」「自分の人生が狂ってしまう」「断る勇気をもつこと」「逃げること」「相談すること」等を常に意識することが大切です。

子供たちを守るためにも、周囲の大人が正しい知識をもち、子供たちに伝えていく必要があります。子供たちの安心安全を守るためにも、情報を共有し、手を取り合いながら子供たちをともに守り育ててまいりましょう。